

令和4年度第7回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日時 令和5年1月25日（水）14時00分～16時12分
場所 事務局5階大会議室
出席者 赤塚（Web参加）、岩崎（Web参加）、大須賀、栗村、鳥居（Web参加）、野田（Web参加）、望月、鈴木（Web参加）、鶴見（Web参加）の各委員
日詰、塩尻、川田、森田、川村、片田、池田、本橋の各委員
欠席者 出野、加藤、大場の各委員
陪席者 高倉、金原、近藤の各副学長、鈴木、河島の各監事

I 前回議事録の承認

令和4年度第6回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 静岡大学の将来構想について

議長から、静岡大学の将来構想について、資料1-1により、令和4年度第8回企画戦略会議（令和4年12月7日）、資料1-2により、令和4年度第9回企画戦略会議（令和5年1月6日）、資料1-3により、令和4年11月25日～令和5年1月25日までの会議等の開催状況、資料1-4により、第48回静岡大学・浜松医科大学連携協議会（令和4年11月30日）について報告、資料1-5により、第49回静岡大学・浜松医科大学連携協議会（令和4年12月23日）について報告があり、意見交換を行った。

（委員から出された主な意見等）

野田委員：統合再編に関する3つのパターンについて本日の資料には見当たらないが、共有いただくことは可能か。

議長：委員の皆様方に共有させていただく。

野田委員：当初の目的は何かという部分がずれてきているように思う。先ほど説明された3つのパターンのメリット、デメリットを確認したい。

議長：学内での議論は法人統合、合意書案、大学統合それぞれの場合について、理事長、大学総括理事の在り方等について、ガバナンス体制について比較した情報を提示して行ったものであるため、それぞれパターンにおけるメリットというものは別のものとしてご理解いただきたい。

野田委員：現状、学長としてどのパターンを考えているのか。

議長：基本的には学長私案として示している通り、まずは法人統合を行い、大学再編について検討を行った後、最終的には大学統合へ向かうのが良いのではないかと考えている。

鶴見委員：静岡大学内での合意形成について可能な状態にあるのか、大学統合の可能性についてどのように考えているのか、法人統合をしてアンブレラ方式で2大学を現状通り残すことは考えられるのか。

議長：合意形成については現状では十分には出来ていない。スピード感は当然求められるが、生半可な合意形成では進められないという感触を持っている。いつまでも続けるつもりはないが、様々なレベルの構成員が理解できるところまでは議論を行うことは必要ではないかと考えている。大学統合につ

いてはハードルが高いと言わざるを得ないと理解しているが、18歳人口が減少していく中で、これからの10年、20年先を考えた際にはしっかりとした経営基盤の構築が重要であると考えている。静岡大学が生き残るためにはどの形の統合が良いのか、静岡大学の将来の在り方を議論していくことが不可欠であると考えている。

赤塚委員：浜松医科大学の意見について静岡大学浜松キャンパスとしてはどのように考えているのか。

議長：自分の主観ではあるが、浜松医科大学の意見は法人統合・大学再編については合意書通りに進めるというもので一貫している。それに対して浜松キャンパスの意見は、基本的には浜松医科大学の方向性に近いものを持っている方が多いということは言えると思う。

赤塚委員：分析をしながら意見を纏める必要があると感じている。

岩崎委員：目指すべき時間軸を考えていただきたい。議論を見ていると浜松キャンパスと浜松医科大学が目指す方向性は時代の要求に応えようとする極めて時間軸としては短いもの、一方で静岡キャンパスを中心とした静岡大学の将来像という方向性は、大きく社会が変容していく中でアカデミアとして何を持って地域に貢献していくのかという時間軸が長いもの、この2つが議論の中でかみ合わない部分が出てきているが、決してかみ合わないものではないと思うので、もう少し議論の中で整理されて進めてはどうか。

議長：そのあたりについてうまくかみ合うような論点整理は不可欠であると思うので考えてみたい。

鈴木委員：進捗が非常に遅い。合意書がネックになっていて、このまま進まないのではないかという気がする。他の合併事例における進捗の時間軸から見ると非常に遅い。どこかで着地の時期を決めて動いていかなければ、この先も同様の議論を繰り返すことになるのではないか。今後一番怖いのは統合の発表から時間が経過しているのになぜ進まないのかということ。第三者が疑問に感じ出すと、大学のイメージも落ち、学生募集にも影響を与える。中身の詳細は分からないが、早くにどちらかが頂点に立つ決め事をするべきではないか。

議長：ご指摘の点は十分理解している。その点も組み入れながらコンセンサスを得られるよう努力していきたい。

鳥居委員：法人統合・大学再編についてどのような考え方で仕事をされているのか。

議長：なんとかして纏め上げるため、どのように筋道を立てていくのかということ。日々考えている。

望月委員：学長がこれから何をすべきかというものが示されていないために同じ議論になるのではないか。これから何をするのかというタイムスケジュールを学長が示すことが大切である。いつまで議論を続け、いつ方針を出し、いつ動くのか、皆、同じ議論が続くことを危惧しているので、そこを年度末までに示すようお願いしたい。もう1つ、浜松地区大学再編・地域未来創造会議について現在頓挫している格好となっているが、10月7日以降に何を行ったのかということでも報告にはなるし、最低限、会議が開かれないとしても、地域の理解を十分に得ながら進めるということであるのだから年度内には何らかの格好で浜松市へアプローチを行っていただきたい。

議長：タイムスケジュールについてのご指摘については、出来る限り設定でき

るよう努めていきたい。浜松地区大学再編・地域未来創造会議への対応についてもご指摘の通りであるので、何らかの形で浜松市ないし浜松市長へ報告できるよう検討していきたい。

2 定年引上げ等の対応について

片田委員から、改正国家公務員法に基づき、令和5年度から国家公務員において段階的な定年引上げ等の制度が新たに導入されることに伴い、本学における本制度の導入について、資料2により検討状況の説明があった。

(委員から出された主な意見等)

鈴木委員、野田委員：定年引上げ等の制度については是非導入していただきたい。

鶴見委員：定年引上げ等の制度の導入については賛成であるが、同時に業務の効率化も進めていただきたい。

望月委員：定年引上げ等の制度については是非導入していただきたい。民間において経営陣は無駄な経費をチェックする。それは官でも同様であり、忘れないでいただきたい。

片田委員：運営費交付金が減少していく中で、収入源を増やす手段は限られているが、効率化、省力化を図ることは永遠の課題であり、終わりのないものと考えている。

3 第4期中期計画の変更について

森田委員から、第4期中期計画の変更を文科省へ認可申請することについて、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(委員から出された主な意見等)

鳥居委員：野外教育施設を買い取る企業はあるのか。また、グローバル共創科学部の現在までの入試状況について教えていただきたい。

片田委員：野外教育施設については出来る限り相手方を探すということは現在も行っている。

森田委員：推薦型入試については定員28名、応募45名、受験者44名という結果であった。

野田委員：中期計画の変更に伴いP/L、B/Sを修正する必要があるのか。

森田委員：資産の関係については修正の必要はないが、グローバル共創科学部、山岳流域研究院については目的を達成したということになるかと思う。

III 報告事項

1 令和5年度予算(案)等について

片田委員から、令和5年度予算(案)について、年末(12月23日)に閣議決定がなされ、本学の運営費交付金等予定額及び施設整備予定事業の連絡があったこと、また、12月2日に成立した令和4年度第2次補正予算についても、本学の施設整備予定事業等について、資料4により報告があった。

2 財務レポート2022について

片田委員から、財務レポート2022について、資料5及び机上配布資料により報告があった。

IV その他

1 令和5年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程について

議長から、令和5年度国立大学法人静岡大学経営協議会の開催日程について、資料6により説明があった。

2 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

3 片田委員から、寺西信一電子工学研究所特任教授と日本電気株式会社が全米テレビ芸術科学アカデミーが主催する「第74回技術・工学エミー賞」の受賞が決定したとの報告があった。

以上